

低出生体重児減少のために今できる事ープレコンセプションケアについてー

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2018-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 雄一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/3238

シンポジウム I 「ライフコースから見た胎生期・乳幼児期の重要性」

低出生体重児減少のために今できる事—プレコンセプションケアについて—
佐藤雄一

産科婦人科館出張佐藤病院

近年わが国では平均出生体重が減少し低出生体重児の割合が増えていることが、人口動態統計調査結果から示されている。これには、早産の増加、多胎児の増加、第1子の割合の増加、高齢出産、喫煙などがあげられるが、それ以外にも女性の体格が細身になっていることや、妊娠中の体重増加が抑えられる傾向にあることなどが考えられている。

当院での検討では、やせ妊婦の場合、標準群や肥満群と比べ妊娠中の体重増加が推奨体重増加に満たないことが多く、また基準内に体重増加しても産まれてくる児の平均出生体重が小さいことがわかった。そのため、より積極的な妊娠中の栄養・体重管理や、さらには妊娠前の栄養・食事教育が必要だと考えられた。

妊娠適齢期の若年女性では食事の量・質ともに課題が多く、食生活の改善が必要である場合が多い。朝食欠食率は高く、エネルギー不足だけでなく、多くの栄養素が不足しており、不妊、流早産、貧血、子宮内胎児発育遅延などの周産期リスクを高める一因となっている。

このような食習慣の女性に妊娠してから「栄養をとるように」と指導しても、なかなか食事を変えることができず、妊娠前から栄養についての認識を深めておくことが大切である。

近年 WHO から提唱されているプレコンセプションケアとは、出産に伴う母体死亡や、新生児死亡、低出生体重児を減少させ、お母さんと赤ちゃんが健やかに生活するために、妊娠前の女性の健康状態を向上させるための取り組みである。そのためには、食事や生活習慣だけでなく、婦人科疾患、貧血、ワクチン接種、薬の影響、心の状態から社会的な生活環境などまでトータルケア・サポートが必要である。現在の日本では、将来の妊娠のためといった考えは少なく、我々周産期医療に携わるものとして、今後プレコンセプションケアをどう広めていき、どこまでできるかを考えていきたい。

【略歴】

平成 5 年	順天堂大学医学部医学科卒業・同附属病院産婦人科医局入局
平成 11 年	順天堂大学医学部附属順天堂医院産婦人科助手
平成 12 年	産科婦人科館出張佐藤病院勤務
平成 13 年	順天堂大学産婦人科学教室非常勤講師
平成 19 年	医療法人館出張佐藤会高崎 ART クリニック理事長
平成 26 年	産科婦人科館出張佐藤病院院長

順天堂大学医学部大学院を卒業後、同大学附属病院勤務を経て、平成 12 年より「産科婦人科館出張（さんかふじんかたてでばり）佐藤病院」勤務。

生殖内分泌や腹腔鏡手術を専門とし平成 19 年には不妊治療専門施設「高崎アートクリニック」を設立、現在佐藤病院院長と高崎アートクリニックの理事長を兼務している。各専門医の立場から、女性の生涯にわたる心身の健康を支援していくことをライフワークと考え、予防医学の観点から NPO 法人ラサーナの理事として、女性の QOL の向上、子宮頸がん、乳がんの撲滅に向けた活動にも力を入れている。

医学博士、順天堂大学産婦人科学教室非常勤講師

日本産婦人科学会専門医、日本生殖医学会生殖医療専門医、日本抗加齢医学会専門医、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医、日本体育協会公認スポーツドクター

【演者・共同演者全員と所属の英語表記】

Yuichi Sato

Obstetrics & Gynecology TATEDEBARI SATO HOSPITAL